

きょういく さど

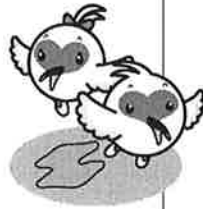
平成26年9月3日
第38号
佐渡市教育委員会
学校教育課

平成26年度全国学力・学習状況調査の結果をお伝えします！

今年度4月22日(火)に行われた「平成26年度全国学力・学習状況調査」の結果が8月25日に明らかになりました。

以下に各科目ごとの平均正答率および、質問紙調査で特徴的だった項目についてお知らせいたします。

これらの数値を参考に、一人一人の児童・生徒の学習状況に目を向け学校においては2学期以降の指導、各御家庭においては家庭学習の充実を図っていただきたいと思います。



平成26年度 全国学力・学習状況調査 【調査内容】

①教科に関する調査(国語, 算数・数学)

A問題: 主として「知識」に関する問題

B問題: 主として「活用」に関する問題

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活と諸側面等に関する調査

【調査対象】

○国公立学校の小学校第6学年, 中学校第3学年

小学校<国語>平均正答率 ()内は全国比

	佐渡市	全国	新潟県
A問題	72.5 (-0.4)	72.9	74.5
B問題	56.8 (+1.3)	55.5	58.8

小学校<算数>平均正答率 ()内は全国比

	佐渡市	全国	新潟県
A問題	79.2 (+1.1)	78.1	80.0
B問題	56.6 (-1.6)	58.2	59.4

中学校<国語>平均正答率 ()内は全国比

	佐渡市	全国	新潟県
A問題	77.2 (-2.2)	79.4	79.5
B問題	48.3 (-2.7)	51.0	50.3

中学校<数学>平均正答率 ()内は全国比

	佐渡市	全国	新潟県
A問題	64.7 (-2.7)	67.4	67.9
B問題	56.6 (-3.2)	59.8	59.8

- ・小学校においては、国語・算数とも全国平均と同程度であるが、算数のB問題に弱さが見られると受け止めています。(ただ、全国との差は昨年度の-3.2から-1.6に縮まっています。)
- ・中学校においては、国語・数学とも全国平均を下回っています。数学は、A問題・B問題ともに、全国との差が大きく縮まった(A問題は-6.0から-2.7に、B問題は-7.8から-3.2に)が、いまだ不十分であると受け止めています。
- ・市教委では、教科や設問ごとの結果を詳細に分析を進めます。そして、課題や指導のポイントを学校支援訪問や下越教育事務所と連携した中学校区計画訪問において指導・助言し、各学校の授業改善を支援することに努めます。

質問紙調査の結果から見た佐渡市小・中学生の姿

* 矢印は肯定的評価の前年度比

<佐渡市小学6年生の結果>

<佐渡市中学3年生の結果>

【質問】朝食を毎日食べていますか

「している」と回答した児童の割合
佐渡市 87.7% (前年度85.4%) ↑
新潟県 90.8% (前年度91.2%)
全 国 88.1% (前年度88.7%)



「している」と回答した生徒の割合
佐渡市 82.4% (前年度85.1%) ↓
新潟県 87.9% (前年度88.1%)
全 国 83.8% (前年度84.3%)

【質問】普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ、DVDを見たり、聞いたりしますか。（テレビゲーム除く）

「2時間以上」と回答した児童の割合
佐渡市 66.7% (前年度64.8%) ↓
新潟県 63.3% (前年度65.3%)
全 国 61.3% (前年度62.5%)



「2時間以上」と回答した生徒の割合
佐渡市 57.5% (前年度64.7%) ↑
新潟県 55.4% (前年度56.9%)
全 国 56.5% (前年度55.5%)

【質問】普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式、携帯やスマホのゲーム含む）をしますか

「1時間以上」と回答した児童の割合
佐渡市 61.4% (前年度55.1%) ↓
新潟県 57.0% (前年度57.9%)
全 国 54.7% (前年度53.0%)



「1時間以上」と回答した生徒の割合
佐渡市 58.1% (前年度54.8%) ↓
新潟県 57.8% (前年度54.0%)
全 国 56.4% (前年度48.0%)

【質問】学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾や家庭教師含む）

「1時間以上」と回答した児童の割合
佐渡市 66.0% (前年度69.7%) ↓
新潟県 69.7% (前年度71.6%)
全 国 62.0% (前年度63.2%)



「1時間以上」と回答した生徒の割合
佐渡市 53.7% (前年度38.9%) ↑
新潟県 59.4% (前年度58.2%)
全 国 67.9% (前年度68.6%)

【質問】家で、学校の宿題をしていますか

「している」と回答した児童の割合
佐渡市 85.8% (前年度86.9%) →
新潟県 86.1% (前年度86.3%)
全 国 86.0% (前年度86.5%)



「している」と回答した生徒の割合
佐渡市 56.9% (前年度43.1%) ↑
新潟県 59.9% (前年度58.4%)
全 国 63.7% (前年度62.4%)

- ・小学6年生では、テレビの視聴時間やゲームの時間に課題があると受け止めています。
- ・中学3年生では、家庭学習や宿題の状況がようやく改善の兆しが見え始めてきたが、県や全国と比較するとまだ不十分であると受け止めています。

上記の結果は平成25年度までの指導の結果として出てきた数値です。市教委では、このほかの学習の状況とも合わせて詳細に分析し、佐渡市小学校長会・中学校長会と連携して、学校生活の改善、児童生徒一人一人の生活習慣や学習習慣の確立に向けた取組を進めていきます。

教研式 NRT 学力検査の結果のお知らせ

表1

平成26年度 佐渡市中学校NRTの結果

教科 学年	国語	社会	数学	理科	英語
1年	51.1	50.9	48.8	51.2	49.4
2年	52.0	50.2	47.8	50.1	49.3
3年	51.7	50.7	48.8	50.4	49.0
全体	51.6	50.6	48.4	50.6	49.2

表2

平成26年度 佐渡市小学校NRTの結果

教科 学年	国語	算数	教科 学年	国語	算数
1年	54.9	55.1	4年	53.2	53.9
2年	54.6	55.1	5年	53.5	55.6
3年	55.8	55.8	6年	54.5	54.9
		全体	54.4		55.1

表3

平成26年度 目標平均偏差値の達成状況

中学校の結果

教科	目標値を達成	割合
国語	12校	92.3%
社会	11校	84.6%
数学	6校	46.2%
理科	9校	69.2%
英語	7校	53.8%

小学校の結果

教科	目標値を達成	割合
国語	18校	81.8%
算数	21校	95.5%

※平成26年度佐渡市目標平均偏差値
■小学校 → 各教科とも
平均偏差値 53以上
■中学校 → 各教科とも
平均偏差値 50以上

「平成26年度 教研式NRT学力検査」の結果がまとまりました。ご覧いただくとともに、各学校においては、今後の指導に役立てていただきたいです。

表1は、平成26年度の中学校の結果です。数字は、平均偏差値で(表2も同様)、各学年および教科ごとに算出されています。(中学校は5教科、小学校では2教科で実施)「全体」は、全学年を一緒にし、教科でまとめた偏差値となります。

佐渡市では、中学校におけるNRTの目標平均偏差値を各教科とも50以上と設定しておりました。(表3参照)この基準に照らしてみると、国語・社会・理科では目標をクリアしております。一方、数学・英語は各学年とも50には届きませんでした。

詳しく見てみますと、数学の中で正答率がよくなかった分野は、各学年とも「資料の活用」でした。これは、この領域の学習が3学期に集中し、学習が完了していない学校が多かったことが原因として推測できます。次に正答率がよくなかったのは「数と式」でした。とくに、2年生で正答率が低く結果が出てきました。これは、新潟県が行うWeb配信集計システムでも明らかになった課題、「佐渡市では『正負の数』『文字式』『方程式』が弱い」という課題と符合するものです。各学校においては、自校の「数と式」領域の実態がどのようになっているか、全校体制で分析を進め、次年度の改善策を明らかにしていただきたいです。

また英語では、各学年とも「書くこと」の正答率が他に比べて低くなっていました。これもWeb問題でも同様の傾向がありました。Web配信問題では毎月記述式の問題が出てきますが、これにしっかり答えられる力を付けていく必要があります。

表2は、平成26年度の小学校の結果です。小学校における目標偏差値は、国・算ともに53以上でしたので、すべての学年で達成したことになります。学校ごとに見ても(表3参照)国語で81.8%、算数で95.5%の学校で平均偏差値53以上を達成しており、満足できる結果です。各学校の学力向上の取組が結果に表れたものと受け止めております。

表 4

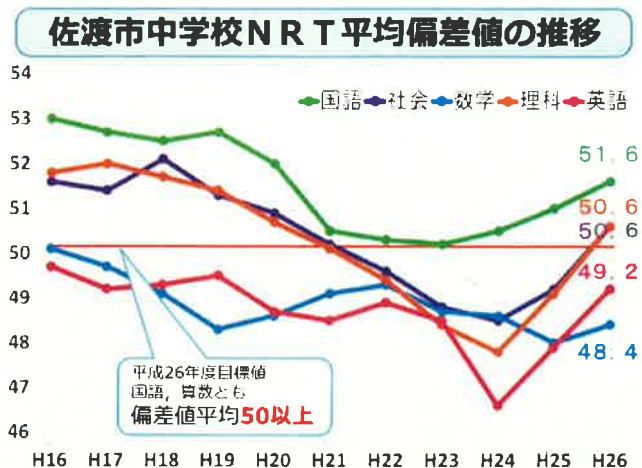


表 4 は、佐渡市中学校の教科別 N R T 平均偏差値の推移です。昨年度（平成 25 年度）は、これまでの低下傾向に歯止めがかかり、数学を除いた 4 教科で若干持ち直しの傾向が見られました。今年度はこの傾向がさらに継続し、社会・理科・英語では前年に比べて明らかな改善傾向が、国語・数学でも若干の改善傾向が見られました。各中学校で行われてきた学力向上の取組の成果と受け止めております。

表 5 は、佐渡市小学校の教科別 N R T 平均偏差値の推移です。佐渡市として検査を開始した平成 16 年から比較して過去最高だった昨年度（平成 25 年度）を国語・算数ともに、さらにわずかに上回る結果となっています。

表 5

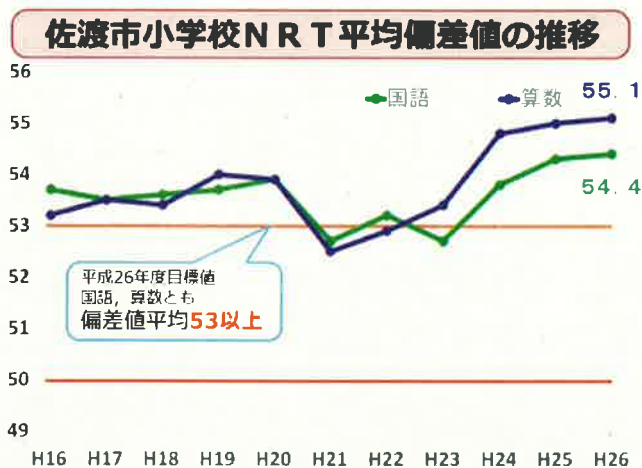


表 6 は、学力偏差値と知能偏差値とを比較して期待される力を身につけている児童生徒がどのくらいいるかを表した数値です。

アンダーアチーバーの割合を見てみると、まだ力を付ける余地がある生徒が、数学・英語を中心に多くいることが分かります。N R T 学力検査をはじめ、各種調査を有効に利用して一人一人の学習状況を確実に把握して、個に応じた指導をより充実させる必要があります。

また、つまずきが見られた学年・学級においては、子どもがどのように考え、どのようにつまずいたのかその実態をつぶさに分析して、日々の授業改善を図る必要があります。さらには、中学校区で連携を図り、中学校で着実に力を付けるために小学校段階で何が課題なのか、小学校でどこまで指導しているのかを明確にして改善を図ることが大切です。

今後とも、佐渡市児童生徒の学力向上のために、ご協力いただけますよう、お願い申し上げます。

表 6

学力偏差値と知能偏差値との関連

中学校				小学校			
教科	O.A.	B.A.	U.A.	教科	O.A.	B.A.	U.A.
国語	11.2	70.8	18.0	国語	24.1	65.2	10.7
社会	13.5	59.3	27.2	算数	31.0	57.6	11.4
数学	7.9	58.7	33.4				
理科	15.7	57.4	26.9				
英語	9.8	58.9	31.3				

※ 数値はそれぞれの人数の割合(%)

※用語について
学力偏差値と知能偏差値を比較し、知能検査の結果に比して学習成績がよい子どもを「オーバーアチーバー(O.A.)」といい、その逆を「アンダーアチーバー(U.A.)」という。均衡している場合は「バランスアチーバー(B.A.)」という。

平成26年度 教研式NRT検査基礎データ

中学校 (13校)	小学校 (24校)
<ul style="list-style-type: none"> ■平成27年1月実施 ■国語、社会、数学、理科、英語の5教科 ■検査対象 <ul style="list-style-type: none"> □第1学年 405名 □第2学年 431名 □第3学年 416名 □合計 1252名 	<ul style="list-style-type: none"> ■平成27年1~2月実施 ■国語、算数の2教科 ■検査対象 <ul style="list-style-type: none"> □第1学年 400名 □第2学年 422名 □第3学年 374名 □第4学年 385名 □第5学年 405名 □第6学年 419名 □合計 2405名

さらに広がる・深まる「佐渡市のキャリア教育」

平成26年度、佐渡市ではキャリア教育の充実のために小学校6校を対象に出前授業「私のみらいづくりワーク」を実施しました。次年度は今年度の成果を生かし、この取組をさらに広げていく予定です。

いじめ及び不登校の状況

いじめの認知件数

単位:件

	小学校				中学校			
		1,000人当たり				1,000人当たり		
		佐渡市	新潟県	全国		佐渡市	新潟県	全国
平成23年度	3	1.1	2.8	4.8	9	6.4	6.8	8.6
平成24年度	11	4.1	6.2	17.4	8	6.0	10.7	17.8
平成25年度	10	3.9	4.9	17.8	10	7.5	11.0	15.6
平成26年度	17	6.8	-	-	4	3.0	-	-

不登校児童生徒数

単位:人

	小学校				中学校			
		1,000人当たり				1,000人当たり		
		佐渡市	新潟県	全国		佐渡市	新潟県	全国
平成23年度	7	2.5	3.3	3.3	62	43.9	25.6	26.4
平成24年度	11	4.1	2.9	3.1	47	35.1	24.9	25.6
平成25年度	16	6.2	3.4	3.6	47	35.0	26.0	26.9
平成26年度	13	5.2	-	-	44	33.4	-	-

平成26年度 体力テスト 佐渡市平均と新潟県平均

	握力平均(kg)	上体起こし平均(回)	長座体前屈平均(cm)	反復横とび平均(回)	シャトルラン平均(回)	50m走平均(秒)	立ち幅跳び平均(cm)	球技平均(m)	平均得点合計
佐渡市小学1年男子	8.90	11.44	26.62	29.37	22.53	11.64	116.74	8.68	31.66
県小学1年男子	9.46	11.67	26.82	28.76	22.43	11.64	115.95	8.70	31.71
佐渡市小学2年男子	11.24	14.80	28.02	34.31	33.86	10.79	129.29	12.36	39.57
県小学2年男子	11.26	14.64	29.17	33.71	34.08	10.81	128.35	12.26	39.57
佐渡市小学3年男子	13.14	16.76	29.46	38.44	43.29	10.05	139.87	17.49	46.25
県小学3年男子	13.12	16.34	30.39	36.89	41.93	10.19	137.06	15.78	45.06
佐渡市小学4年男子	14.79	19.17	31.44	43.05	53.82	9.76	148.08	21.23	51.95
県小学4年男子	15.09	18.56	32.40	41.32	50.23	9.74	145.79	19.77	51.04
佐渡市小学5年男子	17.45	20.82	33.65	44.44	57.35	9.57	153.74	24.39	55.98
県小学5年男子	17.37	20.59	34.78	44.83	58.26	9.37	155.33	23.35	56.56
全国平均	16.55	19.56	32.87	41.61	51.67	9.38	151.71	22.89	53.91
佐渡市小学6年男子	20.00	22.20	35.85	48.85	67.40	9.03	167.76	28.99	62.45
県小学6年男子	20.44	22.66	36.96	47.66	65.86	8.94	167.36	27.50	62.23
佐渡市小学1年女子	8.58	11.84	29.94	28.99	18.98	11.77	113.29	6.13	33.45
県小学1年女子	8.83	11.39	29.53	28.17	18.84	11.90	109.71	6.03	32.35
佐渡市小学2年女子	10.51	14.19	31.75	33.54	26.86	11.00	123.14	7.84	40.67
県小学2年女子	10.53	14.18	32.21	32.91	27.30	11.01	121.87	8.10	40.49
佐渡市小学3年女子	12.25	15.26	33.27	37.84	34.03	10.36	133.82	10.85	47.18
県小学3年女子	12.31	15.77	33.70	35.74	33.21	10.45	130.35	10.14	46.28
佐渡市小学4年女子	13.92	17.99	35.65	41.19	42.24	10.16	138.84	12.31	52.61
県小学4年女子	14.32	17.81	36.14	39.85	40.58	9.95	140.30	12.37	52.70
佐渡市小学5年女子	17.08	19.82	37.68	43.96	49.68	9.60	150.76	15.72	59.11
県小学5年女子	16.82	19.36	39.19	42.98	47.81	9.57	149.41	14.39	58.32
全国平均	16.09	18.26	37.22	39.37	40.30	9.63	144.79	13.89	55.01
佐渡市小学6年女子	19.68	20.33	40.64	45.63	53.74	9.30	159.16	17.81	63.17
県小学6年女子	19.84	20.63	41.50	45.03	52.62	9.22	157.96	16.17	63.04

＝県平均を上回っている種目

平成26年度 体力テスト 佐渡市平均と新潟県平均

	握力平均(kg)	上体起こし平均(回)	長座体前屈平均(cm)	反復横とび平均(回)	シャトルラン平均(回)	50m走平均(秒)	立ち幅跳び平均(cm)	球技平均(m)	平均得点合計
佐渡市1年男子	24.90	23.77	41.55	49.04	72.36	8.49	187.43	18.22	35.55
県1年男子	24.70	24.84	41.99	49.46	74.42	8.56	184.63	18.23	40.23
佐渡市2年男子	30.18	27.16	42.60	50.79	87.49	7.82	199.42	22.50	43.48
県2年男子	30.14	28.74	45.65	52.51	89.06	7.96	201.34	21.62	50.31
全国平均	29.00	27.36	42.87	51.31	85.02	8.03	193.44	20.81	41.63
佐渡市3年男子	36.50	29.60	46.73	55.61	96.42	7.47	213.74	24.85	51.19
県3年男子	35.52	30.95	49.63	54.89	94.46	7.57	214.94	24.40	56.78
佐渡市1年女子	22.47	20.80	43.03	45.23	58.40	8.77	168.15	12.10	46.95
県1年女子	21.95	21.51	45.38	45.52	56.21	9.05	167.24	11.46	51.97
佐渡市2年女子	24.52	23.55	45.68	46.95	62.55	8.64	172.06	13.87	51.94
県2年女子	24.29	24.18	48.47	46.58	60.78	8.82	172.31	13.00	57.53
全国平均	23.68	22.99	45.25	45.64	57.50	8.87	166.47	12.81	48.55
佐渡市3年女子	25.57	23.63	46.26	47.84	60.43	8.54	174.03	14.48	53.53
県3年女子	25.65	25.27	50.55	47.15	59.53	8.74	174.14	13.74	59.04



＝県平均を上回っている種目

佐渡市教育委員会 学校教育課 小・中学校統合一覧表

平成27年 5月

《 佐渡市 小・中学校統合一覧表 》

○計画策定時学校数等

平成18年9月「佐渡市小学校・中学校統合一覧表」策定時、
小学校36校・1分校で、児童数3,346人、中学校16校で、
生徒数1,821人

○前期統合一覧表(平成18年度～23年度)

現在までに、小学校12校1分校減、中学校3校減
平成27年5月1日現在 小学校数24校、児童数2,439人
中学校数13校、生徒数1,266人

○後期統合一覧表(平成24年度～29年度)

後期計画では平成30年4月に現在の小学校数24校を
17校に、中学校数14校を10校とする計画。

計画	統合年月	統合前	→	統合後	移動先
	平成18年9月	佐渡市統合一覧表策定			
済	平成19年4月	加茂小・馬首小	→	加茂小学校	加茂小へ
済	〃	岩首小・野浦小・片野尾小	→	前浜小学校	前浜小(野浦小)へ
済	平成20年4月	南中・北中	→	南中学校	南中へ
済	平成22年4月	真野小・西三川小・同笹川分校	→	真野小学校	真野小へ
済	〃	羽茂小・大滝小・小村小	→	羽茂小学校	羽茂小へ
済	平成23年4月	小木小・深浦小	→	小木小学校	小木小へ
済	平成24年4月	松ヶ崎中・松ヶ崎小	→	松ヶ崎小・中連携	松ヶ崎小へ
済	〃	前浜中・前浜小	→	前浜小・中連携	前浜中へ
済	〃	内海府中・内海府小	→	内海府小・中連携	内海府中へ
済	〃	高千中・高千小	→	高千小・中連携	
済	平成25年4月	金井小・金井吉井小	→	金井小学校	金井小新校舎へ
済	〃	畑野小・小倉小・後山小	→	畑野小学校	畑野小新校舎へ
済	〃	東中・南中	→	両津中学校	両津中(南中)へ
済	〃	加茂小・浦川小	→	加茂小学校	加茂小へ
済	〃	羽茂小・川茂小	→	羽茂小学校	羽茂小へ
済	平成26年4月	小木中・羽茂中	→	南佐渡中学校	南佐渡中新校舎へ
(後期)		両尾小・河崎小・両津小・加茂小・両津吉井小	→		5校を3校に
(後期)		沢根小・河原田小・八幡小・二宮小	→		4校を2校に
(後期)		新穂小・行谷小	→		2校を1校に
(後期)		相川小・七浦小・金泉小	→	相川小学校	3校を1校に
(後期)		金井中・新穂中・畑野中・真野中	→		4校を2校に
(後期)		赤泊中・南佐渡中	→	南佐渡中学校	2校を1校に

佐渡市立小中学校統合の状況（統合計画はH18～H29）

18年度			27年度		比較		
小学校 36校・1分校 中学校 16校		児童 生徒数	小学校 24校 中学校 13校	児童 生徒数	減少数	減少率	
1	岩首小学校（H19年3月閉校）	7	1	前浜小学校	25	-7	-21.9%
2	片野尾小学校（H19年閉校）	9	2	両尾小学校	29	-33	-53.2%
3	片野尾小学校（H19年3月閉校）	16	3	河崎小学校	60	-42	-41.2%
4	両尾小学校	62	4	両津小学校	137	-131	-48.9%
5	河崎小学校	102	5	両津吉井小学校	66	1	1.5%
6	両津小学校	268	6	加茂小学校	210	-48	-18.6%
7	両津吉井小学校	65	7	内海府小学校	13	-11	-45.8%
8	加茂小学校	236	8	相川小学校	135	-2	-1.5%
9	馬首小学校（H19年3月閉校）	7	9	七浦小学校	49	-18	-26.9%
10	浦川小学校（H25年3月閉校）	15	10	金泉小学校	50	-17	-25.4%
11	内海府小学校	24	11	高千小学校	34	-26	-43.3%
12	相川小学校	137	12	沢根小学校	45	-35	-43.8%
13	七浦小学校	67	13	河原田小学校	131	-58	-30.7%
14	金泉小学校	67	14	八幡小学校	53	-45	-45.9%
15	高千小学校	60	15	二宮小学校	172	-42	-19.6%
16	沢根小学校	80	16	金井小学校	357	-41	-10.3%
17	河原田小学校	189	17	新穂小学校	97	-25	-20.5%
18	八幡小学校	98	18	行谷小学校	63	-18	-22.2%
19	二宮小学校	214	19	畑野小学校	182	-55	-23.2%
20	金井小学校（H25年3月閉校）	310	20	松ヶ崎小学校	16	-5	-23.8%
21	金井吉井小学校（H25年3月閉校）	88	21	真野小学校	234	-50	-17.6%
22	新穂小学校	122	22	小木小学校	74	-97	-56.7%
23	行谷小学校	81	23	羽茂小学校	132	-58	-30.5%
24	畑野小学校（H25年3月閉校）	149	24	赤泊小学校	75	-44	-37.0%
25	後山小学校（H25年3月閉校）	71					
26	小倉小学校（H25年3月閉校）	17					
27	松ヶ崎小学校	21					
28	真野小学校	249					
29	西三川小学校（H22年3月閉校）	35					
30	西三川小学校 笹川分校						
31	小木小学校	136					
32	深浦小学校（H23年3月閉校）	35					
33	羽茂小学校	125					
34	大滝小学校（H22年3月閉校）	18					
35	小村小学校（H22年3月閉校）	26					
36	赤泊小学校	119					
	川茂小学校（H25年3月閉校）※羽茂小へ統合	21					
小学校計		3,346	小学校計		2,439	-907	-27.1%
1	東中学校（H25年3月閉校）	160	1	両津中学校	176	-234	-57.1%
2	南中学校（H25年3月閉校）	236	2	内海府中学校	8	-7	-46.7%
3	北中学校（H20年3月閉校）	14	3	前浜中学校	15	-13	-46.4%
4	内海府中学校	15	4	相川中学校	121	-51	-29.7%
5	前浜中学校	28	5	高千中学校	22	-16	-42.1%
6	相川中学校	172	6	佐和田中学校	228	-35	-13.3%
7	高千中学校	38	7	金井中学校	180	-14	-7.2%
8	佐和田中学校	263	8	新穂中学校	95	-42	-30.7%
9	金井中学校	194	9	畑野中学校	95	-19	-16.7%
10	新穂中学校	137	10	松ヶ崎中学校	7	-4	-36.4%
11	畑野中学校	114	11	真野中学校	137	-21	-13.3%
12	松ヶ崎中学校	11	12	南佐渡中学校	136	-60	-30.6%
13	真野中学校	158	13	赤泊中学校	46	-39	-45.9%
14	小木中学校（H26年3月閉校）	99					
15	羽茂中学校（H26年3月閉校）	97					
16	赤泊中学校	85					
中学校計		1,821	中学校計		1,266	-555	-30.5%
中学校計		1,821	参考 県立佐渡中等教育学校		142		
中学校計		1,821	中学校計(県立含む)		1,408	-413	-22.7%
小・中計		5,167	小・中計		3,705	-1,462	-28.3%
小・中計		5,167	小・中計(県立含む)		3,847	-1,320	-25.5%

学校給食センター一覧

平成27年度現在

名称	食数	受配置校
両津学校給食センター	948	両津小学校、加茂小学校、河崎小学校、両津吉井小学校、両尾小学校、両津中学校、佐渡中等教育学校
相川学校給食センター	432	相川小学校、七浦小学校、金泉小学校、相川中学校、あいかわ幼稚園
佐和田学校給食センター	734	沢根小学校、河原田小学校、八幡小学校、二宮小学校、佐和田中学校、さわた幼稚園
国仲学校給食センター	1,415	金井小学校、新穂小学校、行谷小学校、真野小学校、金井中学校、新穂中学校、真野中学校、佐渡特別支援学校
畑野学校給食センター	314	畑野小学校、畑野中学校 ※平成28年度廃止予定
松ヶ崎学校給食センター	40	松ヶ崎小学校、松ヶ崎中学校
南佐渡学校給食センター	400	小木小学校、羽茂小学校、南佐渡中学校
赤泊学校給食センター	152	赤泊小学校、赤泊中学校
計	4,435	

※単独調理場は前浜中学校、内海府中学校、高千中学校

幼稚園一覧 平成27年5月1日現在

名称	園児数
あいかわ幼稚園	13
さわた幼稚園	11
小木幼稚園	15
計	39

平成26年度市内の高等学校等卒業生の進路状況

	進学			就職	その他	合計
	大学	専修学校等	計			
人数(人)	201	147	348	110	10	468
割合	42.9%	31.4%	74.4%	23.5%	2.1%	100%

注) 学校のHPを参考に作成
 (その他の人数については、公表されている学校のための集計)

平成25年度市内の高等学校等卒業生の進路状況

	進学			就職	その他	合計
	大学	専修学校等	計			
人数(人)	217	177	394	84	11	489
割合	44.4%	36.2%	80.6%	17.2%	2.2%	100%

注) 学校基本調査結果及び中等教育学校のHPを参考に集計

平成27年3月 新規学校卒業予定者(高等学校)の職業紹介状況
(平成27年4月末日現在)

ハローワーク佐渡

		本年	前年同月	増減数	増減率	
求職	計	94	70	24	34.3	
	男	57	41	16	39.0	
	女	37	29	8	27.6	
求人		162	152	10	6.6	
就職	総数	計	94	70	24	34.3
		男	57	41	16	39.0
		女	37	29	8	27.6
	管内	計	62	51	11	21.6
		男	32	32	0	0.0
		女	30	19	11	57.9
	他管内	計	23	15	8	53.3
		男	17	8	9	112.5
		女	6	7	▲ 1	▲ 14.3
県外	計	9	4	5	125.0	
	男	8	1	7	700.0	
	女	1	3	▲ 2	▲ 66.7	

		本年	前年
就職内定率(%)	計	100.0	100.0
	男	100.0	100.0
	女	100.0	100.0
管内就職構成比(%)	計	66.0	72.9
	男	56.1	78.0
	女	81.1	65.5
県内就職構成比(%)	計	90.4	94.3
	男	86.0	97.6
	女	97.3	89.7
県外就職構成比(%)	計	9.6	5.7
	男	14.0	2.4
	女	2.7	10.3

		本年	前年
求人倍率(倍)		1.72	2.17
管外からの受入	計	0	0
	男	0	0
	女	0	0
充足数	計	62	51
	男	32	32
	女	30	19
求人充足率(%)		38.3	33.6

(注)

- ▲印は減少を表す
- 増減率＝本年÷前年同月×100－100。
- 求人倍率は、小数点以下第3位を四捨五入
- 求人充足率・就職内定率・管内就職構成比・県内就職構成比・県外就職構成比・増減率は、小数点以下第2位を四捨五入。

問1：あなたの現在のお住まいについて

佐渡島内	101 人 (32.8%)	関東	89 人 (28.9%)	海外	2 人 (0.7%)
新潟市内	79 人 (25.7%)	関西	9 人 (2.9%)		
その他新潟県内	14 人 (4.5%)	その他の国内	14 人 (4.5%)	合計	308 人

問2：あなたの性別について

男性	142 人 (46.1%)		
女性	166 人 (53.9%)	合計	308 人

問3：あなたの社会的身分について

学生	154 人 (50.0%)	公務員	6 人 (1.9%)	無職(休職)	6 人 (1.9%)
会社員(正社員)	94 人 (30.6%)	フリーター	12 人 (3.9%)		
会社員(非正規)	32 人 (10.4%)	専業主婦(夫)	4 人 (1.3%)	合計	308 人

問4：佐渡市内に在住する方への質問

(1) 佐渡市に残ることを決めた理由について(主な意見)

- ・自宅から通勤できるから。
- ・家族がいるため。
- ・都会が嫌いだから。
- ・佐渡が好きだから。 ←多数意見
- ・佐渡で仕事を見つけたから。
- ・看護師になるため。
- ・家業継承のため。
- ・老人のために働きたかったから。
- ・佐渡を出る理由が無かったから。
- ・職が決まらなかったから。
- ・結婚したから。
- ・住みやすいから。
- ・特に理由はない。なんとなく。 ←多数意見
- ・トキがいるから。 など

(2) 今後の予定について

① 特別な事が無ければ、今後も佐渡に住み続ける予定	77 人 (76.2%)
② 今後佐渡を出る予定	10 人 (9.9%)
③ 未回答	14 人 (13.9%)

- ↳ ②の理由
- ・田舎だから。
 - ・なんとなく。

問5：佐渡市外に在住する方への質問

(1) 佐渡市から出ることを決めた理由について(主な意見)

- ・進学(大学、専門学校)のため。 ←多数意見
- ・就職先が少ないため。 ←多数意見
- ・視野を広げてみたかった。
- ・佐渡がつまらない、嫌だから。
- ・外の世界を知りたかったから。
- ・やりたい仕事のため。
- ・特に理由が無く、島を出てみたかったから。都会で暮らしてみたかった。 ←多数意見
- ・佐渡は交通が不便。 など

(2) 今後の予定について

① 学校を卒業したら佐渡に帰ってくる(又は帰りたい)	33 人 (15.9%)
② 今は島外で働いているが、働く所があれば帰りたい	28 人 (13.5%)
③ 人生の終着駅として、いつの日か帰ってきたい	91 人 (44.0%)
④ 今後帰ってくる予定はない	29 人 (14.0%)
⑤ 未回答	26 人 (12.6%)

②の具体的な職種等

- ・医療系
- ・ブライダル
- ・デパート
- ・保育士

(3) 佐渡に何があれば帰ってきたいか、どうしたら佐渡に住みたいと思うか。(主な意見)

- ・就職先 ←多数意見
- ・映画館等、娯楽施設。
- ・チェーン店。
- ・出会い など

問6：次のことについてどう考えるか

(1) 佐渡の良さは何か。(主な意見)

- ・自然の豊かさ。 ←多数意見
- ・人の良さ、温かさ。
- ・人の繋がりがまだあるところ。
- ・時間の流れがゆっくりと感じられるところ。
- ・食べ物がおいしいところ。 など

(2) 佐渡の嫌いなところ、佐渡に足りないもの(こと)は何か。

- ・交通の便が悪い。 ←多数意見
- ・就職先が少ない。 ←多数意見
- ・若者向けのお店、娯楽施設がない。 ←多数意見
- ・交通マナーが悪い。
- ・ショッピングセンター、チェーン店 など

新成人へのアンケート調査結果

問7：人口減少への歯止め、佐渡が活性化するにはどうすればよいか。自分にできること、やりたいこと。

- ・佐渡の良さをもっとアピールする。
- ・地域貢献、地域行事の活性化。
- ・若者の仕事を増やして人口増加をねらう。
- ・帰ってくる人を増やす。または県内外から人を増やす。
- ・佐渡の悪いところもしっかり伝えていく。
- ・一生懸命、佐渡で働く。
- ・趣味を増やせるようになりたい。
- ・佐渡で結婚して子供をたくさん産む。そのためのお金を市が負担する。
- ・若者向けの産業をつくる。
- ・観光の活性化、特に情報量やPR力。
- ・佐渡コンの開催。
- ・佐渡を見捨てないこと。
- ・佐渡に戻ってくること。
- ・島民一丸となって、何かの企画をする。
- ・佐渡の良さを追求し、若者にとって住みやすい街にする。
- ・農業をしたい人に古民家や敷地を格安で提供する。
- ・若い人が積極的に盛り上げる必要がある。 など

問8：5年後、10年後の佐渡はどうなっていてほしいと思うか。

- ・もっと発展してもらいたい。都市化してほしい。 ←多数意見
- ・今と変わらないでほしい。 ←多数意見
- ・人口は減らず、増えすぎず、穏やかであり続けてほしい。
- ・人口も増え、にぎわってほしい。
- ・人が溢れる島。
- ・住む人、訪れる人にとって、ホームであつたらいい。
- ・若者が多い島になってほしい。
- ・発展しつつも変わらないでいてほしい。 など

【参考】成人式対象者	630	名
出席	308	497 名
アンケート有効数	308	
回収率	62.0%	

事業の現状並びにその課題と対応策（社会教育課）

（1）社会教育係の所管事業

① 現 状

- ・ 地区の高齢化や人口が減少し、地区公民館活動へ市民の参加が減少している。
- ・ 家庭教育や子育てに関する講座が減少している。
- ・ 高度情報化に伴い、市民の多種多様な学習需要が高まってきており、市民の声を反映した「いつでも・どこでも・だれでも」学べる、講座・教室の開設が求められている。
- ・ 青少年を取り巻く環境は、情報通信技術の高度化により見えにくくなり、「いじめ」や「暴力」などに巻き込まれる状況であり、青少年の問題が複雑化している。
- ・ 限られた予算や職員配置の中で、生涯学習活動の拠点としての地区公民館や事業の運営、施設老朽化に伴う統廃合計画の策定が必要となっている。
- ・ 子どもを取り巻く教育環境が大きく変化しており、学校、家庭及び地域住民等がそれぞれの役割と責任を自覚しつつ、地域全体で教育に取り組む体制づくりが必要となっている。

② 課題と対応策

- ・ 人員適正化計画により各地区教育事務所で事業を担う職員が減少し、地区公民館事業が減少となった。地区公民館事業のマンネリ化が参加者数の減少につながり、住民ニーズにあった魅力ある事業が求められている。このため平成 26 年度に地区公民館事業の活性化と人的支援を進めるため、「地区公民館事業活性化支援隊」を組織した。地域活性化を更に推進するためにも、公民館活動の充実が求められており、地区内で活動する関連団体と連携し公民館事業に取り組むと共に、地区住民の要望に沿った事業へと見直しを進める。また、参加年齢層の拡大や地域リーダーの育成支援を行う。
- ・ 子育てや親子世代を対象とする講座が少ないため、地区公民館では家庭教育や子育て世代を対象とした講座に取り組み、佐渡市子ども会連絡協議会や関連団体と連携した事業に取り組む。
- ・ 生きがいを持てる講座・教室を開設し、生涯学習フェスティバルや各地区文化祭・芸能祭を通して、生涯学習活動の発表の場となる学習機会の提供に努める。
- ・ 市民大学講座を通し、キャリア教育の一環として佐渡市固有の自然・歴史文化を学ぶ学習機会を提供する。
- ・ 地区公民館組織は、公民館運営審議会の意見を聞きながら、地域の総合的な課題に対応するため、地域で活動する各種団体とも連携・協働を進め、ネットワーク型行政の推進を進め、体制の見直しを図る。
- ・ 必要課題と要求課題（社会の要請と個人の要求）について、必要課題は、各地区の特色を生かした事業を行い、地区間で事業が重複しないようにする。また、要求課題については、仲間作りと生きがい作りを推進し、継続的な活動となるよう自主事業への展開を図る。
- ・ 本庁と地区教育事務所や地区公民館との間で、十分に課題の共有化が図られていない。社会情勢の変化に伴う事業内容の見直しが必要なことから、各地区公民館長や担当職員で情報交換の場を定例で設定し、課題の共有と解決のため協議を進める。

- ・ 各地区青少年健全育成協議会が設立されているが、活動内容に差が生じている。佐渡市青少年健全育成市民会議により、各地区における青少年に関する課題や情報交換、各地区協議会の事業実施に向けた協議を行い、青少年健全育成事業の充実を図る。
- ・ 地域の豊富な社会経験を持つ人材等の協力を得て、学校環境整備や学校行事支援等により、社会全体の教育力の向上及び地域の活性化を図る必要があることから、新潟県学校・家庭・地域の連携促進事業補助を活用し、人材バンク登録制度の活用や地区公民館ネットワークを有効活用し、地域の人材を活用しながら講師の派遣要請に応えられる体制を構築する。

(2) 社会体育係の所管事業

① 現 状

- ・ スポーツ推進活動事業は、スポーツ振興計画に基づき、スポーツ関係団体等と連携した事業を推進している。
- ・ 佐渡市スポーツ推進委員と教育事務所担当者が構成する佐渡市スポーツ推進委員協議会は、各種スポーツ教室及び健康・体力づくり講座等の企画・運営及び実技指導を行っている。
- ・ 佐渡市スポーツ少年団は、小学生を中心としたスポーツ団体が加盟しており、柔道、剣道、空手道、軟式野球、ミニバレーボール、ミニバスケットボール、バドミントンなどの種目団体が活動している。
- ・ 総合型地域スポーツクラブの「元気トキめきクラブ」は、特定非営利活動法人の資格を取得するとともに、「健康・スポーツ・文化の3つを柱に、市民の健康づくり・生きがいをづくりを目的として、“いつでも・だれでも・年齢や体力に応じて気軽に”運動や文化活動など、様々な活動ができるクラブ」をスローガンに精力的に活動を行っている。
- ・ スポーツの普及や競技力向上を目的に、市外大会等へ参加する際の支援を行っている。全国大会等に参加する際の直接的な支援として「佐渡市スポーツ大会派遣補助制度」を制定しているほか、北信越大会・県大会等への参加を促進・支援するため、佐渡市体育協会に対し補助している。
- ・ 佐渡市体育協会は、主に競技団体が技術や体力の向上を目指すと共に、競技の普及及び競技力向上を目的に活動している。地区体育協会は、地域のスポーツ活動及び地域活性化の中核を担う団体として、地区単位での大会企画・運営を行っている。
- ・ 市内全域を網羅し、全国へ発信するスポーツ事業として、実行委員会を組織し、一般財団法人佐渡市スポーツ振興財団を事務局として、様々な大会・イベント等に取り組んでいる。具体的には、佐渡トキマラソン大会（4/26）、佐渡ロングライド210（5/17）、ビーチライフ（8/1）佐渡オープンウォータースイミング（8/2）、佐渡国際トライアスロン大会（9/6）、佐渡ツーデーウオーク（10/17・18）の開催を予定している。また、新たに環境スポーツイベントとしてシートゥーサミット（6/下旬）を計画している。
- ・ 体育施設の統廃合については、施設統廃合計画に基づき進めている。サンテラ佐渡スーパーアリーナの完成により、既存施設の統廃合を行うべく、調整を進めている。
- ・ 各地域で形成しているジュニアスポーツクラブについては、スポーツの普及及び競技水準の向上を図り、スポーツを通じて公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、

豊かな人間性を育むことを目的に活発に活動している。

② 課題と対応策

- ・ 佐渡市スポーツ振興計画については、P D C Aサイクルに基づいた評価計画を実施し、計画の見直しや実施計画の策定を進めるため、スポーツ推進審議会などの関係機関と調整を進めていく。
- ・ 更に効率のよい施設の管理・運用を図るため、指定管理者制度の活用と管理者との調整・連携を図る。
- ・ スポーツ推進の新しい拠点となるサンテラ佐渡スーパーアリーナの利用について、体育協会や一般利用団体との調整を行ない、公正な利用形態の確立に努める。
- ・ 一般財団法人佐渡市スポーツ振興財団と佐渡市体育協会の統合により、佐渡市のスポーツ活動の中枢を担う新たなスポーツ関係組織を立ち上げ、連携の在り方等を検討し組織の充実を図る。
- ・ ジュニアスポーツを指導するうえで必要な知識を取得する研修会を開催し、そのジュニアスポーツに適した指導を行うことにより青少年の健全育成、技術の向上、スポーツの普及・推進を図る。

(3) 佐渡中央文化会館の所管事業

①現状

- ・ 佐渡中央文化会館は平成6年に開館してすでに20年が経過し、舞台装置や音響・照明設備及び施設の大規模改修を行う時期に来ている。また、両津文化会館についても開館してから40年以上が経過しており、施設維持管理経費も増加している。
- ・ 人気アーティストのコンサート等を積極的に主催することにより、島外からの誘客に伴う島内経済への波及効果なども検討しながら、自主事業運営の選択を行っている。
- ・ 文化施設の自主事業運営に際し、費用対効果の精査だけで事業を行うと、クラシックや伝統芸能等の不採算コンサートの事業はなかなか行えない。市民の文化教育の視点に立った効果も考慮しながら事業を行う必要がある。

② 課題と対応策

- ・ 市の芸術・文化振興の拠点として、市民が集い親しまれる会館を目指すため、佐渡中央文化会館の大規模改修について、両津文化会館を含めて、今後の利用形態等を踏まえた施設維持管理の方法について検討し、計画的に改修を行う。
- ・ 市民に感動を与える舞台芸術を提供するため、自主事業については、今後も企画段階から事業実施までを担う市民グループと協働し、豊かな心の育成と地域の活性化を図る。

(4) 図書館・図書室の所管事業

① 現状

- ・ 地域の情報の拠点として、利用者のニーズが多様化している。
- ・ 来館、貸出ともに増加傾向にあり、滞在型の利用者が増えている。
- ・ 図書館・室においては、憩いの場、交流の場として利用されている反面、静かな環境が保たれていない傾向にある。
- ・ 中央図書館の駐車場が狭く、利用者の不便をきたしている。
- ・ 読み聞かせボランティアとの協同により、読書推進の普及に努めている。

② 課題と対応策

- ・図書館運営の見直しを行い、図書館サービスや資料管理の改善に努める。
- ・地域の情報拠点として、郷土資料、行政資料をはじめとする地域資料の収集と活用、また市民の知的ニーズを的確に把握し、幅広い分野の資料収集に努める。
- ・調査相談（レファレンス）業務の充実と情報提供を行う。
- ・新潟大学附属図書館、県立図書館をはじめとする県内外の公共図書館や大学図書館、研究機関等と連携し、市民への迅速・的確な資料提供に努める。
- ・図書館・室から遠隔な地域において、移動図書館車を運行し、広域的な図書館サービスを提供する。
- ・子どもたちが読書に親しみ心豊かに成長するよう、家庭、地域、保育園、学校、ボランティア等と連携協力し読書活動の推進に努める。
- ・図書館行事等の読書推進啓発活動を行う。

（５）佐渡学センターの所管事業

① 現 状

- ・情報化社会の中、市民・観光客から多種多様な博物館のあり方が問われている。
- ・合併以前の施設開館以来、常設展示が更新されず、企画展示も少ない中で、市民の利用者が少ない。
- ・多くの施設で受入資料の整理や合併後の資料データの一元化が進んでおらず、収蔵資料の公開や展示活用が十分に行われていない。
- ・所管の展示・収蔵施設が島内各地に点在しており、職員配置や予算配分の削減が進む中で、職員が施設管理業務に追われている。
- ・行政改革の視点から、展示・収蔵施設の統廃合が求められている。
- ・民俗資料中心の常設展示が多く、多様な佐渡の歴史・文化・自然が系統的に紹介されていない。
- ・学芸職員が博物館業務の中心としての、資料の調査研究に携われない。

② 課題と対応策

- ・行政改革における施設統廃合が急務であり、博物館・資料館の管理運営体制の見直しを行う。
- ・各施設における収蔵品の保存活用や文化財指定資料の保管徹底と収蔵資料のデータベース化が緊急の課題であり、職員配置も調整しながら集中的に行う。
- ・積極的な調査研究活動やその情報発信のあり方が求められており、ホームページの充実を含め、機関刊行物等への掲載を目標にしながら、地道な調査研究を進める。
- ・従来の人文学系の郷土博物館に加え、自然科学分野の資料取扱いが課題であり、ジオパーク推進室や大学・民間研究者との連携を図りながらその充実を図る。
- ・佐渡という観光地としての博物館の役割を踏まえつつ、企画展示の計画的な開催や情報発信により、市民にも親しまれる博物館をめざす。
- ・博物館への多様なニーズに対応し、学校教育や大学・世界遺産・ジオパーク・ジアスの政策とも連携を図る。

（６）ジオパーク推進事業

① 現 状

- ・日本ジオパークネットワークや新潟圏域における交流を図っている。

- ・ジオサイトにおける看板や道標の整備を進めている。
- ・ホームページによる情報発信が不十分で、ジオパーク推進に係る最新情報が公開されていない。
- ・パンフレット等、ジオパークを楽しむための資料作成を進めている。
- ・ジオパーク普及のため、市民・団体等による見学ツアーや講演会を開催している。
- ・旅行商品やジオパーク関連商品の開発に向けた取組みが弱い。
- ・ジオパークガイドの養成とジオパークガイド協会の活動支援を行っている。

② 課題とその対応策

- ・幅広い事業展開が必要であり、ジオパーク推進協議会を核とした事業展開を図る。
- ・市民への普及啓発を図るため、各種イベント等を通じて、学習機会の提供を積極的に行う。
- ・3遺産連携が課題となる中、世界遺産・ジオスとの情報共有を図る。
- ・ジオガイドの養成と資質向上のため、ガイド養成講座や研修会を行うとともに、既存ガイド団体との連携を図る。
- ・パンフレット・マップについては、アクションプラン（実施計画）に沿って年次的に進める。その際、外国語表記についても留意する。
- ・ジオサイト整備等は、地元の協力や理解をいただく中で、アクションプラン（実施計画）に沿って年次的に進める。
- ・ジオパークツアー商品について、観光協会等の関係機関と連携しながら開発に努力する。
- ・ジオパーク関連商品の開発や販売に向けた取組みを民間との協働で取り組む。
- ・拠点施設（ガイダンス施設）の整備は、佐渡博物館を中心とし、各地域の博物館や観光案内所と連携しながら進める。
- ・庁内におけるジオパークの活用を促進する。